

# シンガポールの教育

教育学科 2年

私たちはシンガポールに行って海外研修をしてきました。私がこの海外研修に参加しようと思ったのは、海外研修のことを知ったときに、日本の教育だけではなく、違う国での教育方法や日本との違いを知りたいという気持ちになったからです。また、その教育現場を実際に自分の目で見てみたいと思ったことから参加しました。

研修前に、シンガポールについて調べて知ったことは、子どもが小さい時期から教育に関して競争が激しいということです。その理由は小学校の段階で学力判定され、人生が決まるからです。早い段階で人生のコースが決定するので、教育熱が高くなるということを知りました。それを知ったうえで教育現場をいくつか訪問して、どこもやはり教育の質が高く感じられました。

## 1. 初等教育

一番はじめに小学校（女子校）を訪ねました。教育理念は、女性として礼儀正しく人に優しくできるよう教養し、心身共に健康である女性を育てる・人の前で正しいこと、思っていることを堂々と言えるように育てる・知的好奇心を常にずっと持っていられる



ように育てるということでした。女子校なので、女性としての意識づけとしての教育もあるのだと実際に見て分かりました。制服が低学年は短パンですが、高学年になるとスカートになったりと学年があがるにつれて清楚になっていきます。また、ダンスの授業を一緒に受けてその時は男性役、女性役となって踊ったりして女の子という意識を高めるためにそうしているのかなと思いました。新聞を読むことで社会を知るという活動は日本と同じでした。また、もう一つ日本と似たようなところがありました。バディーシステムというのがあって、1年生一人一人に特定の4～5年生のお姉さんがついて、つきっきりで面倒をみるというシステムがありました。日本では、つきっきりではないけど、6年生が1年生の面倒を学校生活に慣れるまで掃除を手伝いに行くなどすることがあるから似ているなと思いました。ですが、その学校はお買い物の仕方等も教えてあげるそうです。学校で学んだことを社会で役立たせることができる活動をしていると聞いたので、バディーシステムによって学ぶお買い物の仕方その一つなのだなと思いました。シンガポールは多国籍・

多文化な国なので、宗教・人種・文化ごとに行事がありそれを学校で全部するそうです。交流会として、お互いの文化の服を着て写真を撮ったり、お食事をするそうです。また、多国籍・多文化であり、宗教・人種・文化が様々であるため、道徳の授業ではその子の出身に合わせた道徳をします。価値観やその宗教のレベルに合わせて教室を分けるそうです。多国籍・多文化ならではの工夫がされているのだと感じました。学校の図書館では、何語の本かで分けられて置かれていました。いろんな国の本があって面白かったです。



多文化・多国籍ならではの良いところも見つかりました。まず、バイリンガルであることが当たり前であり、多言語を学べるということです。また、いろんな考え方を学べるなと思いました。もうひとつは、いじめが少ないことです。多文化だからというはっきりとした理由にはなりませんが、みんな

違うのが当たり前として生きてきているので、いじめというものに繋がりにくいのかなと感じました。

小学校の交流会では、日本の文化であり、遊びである折り紙をしました。子どもたちはとても興味津々になって折り紙に取り組んでくれました。折り紙でする作業の説明をするのに苦戦しましたが、はやく理解できた子どもたちに助けてもらえました。子ども同士で教えあっている姿や楽しんでいる様子を見て安心しましたし、嬉しかったです。そしていろんな国の子どもたちが仲良くしている姿を見て素敵だなと感じました。

シンガポールは学力が高い国なので、子どもたちは厳しく指導されているのかなと思っていましたが、みんな伸び伸びとしていて、訪問する前のイメージとの差が大きかったです。また、成績はテストで決めるのではなく、態度・意欲、授業への貢献度で決まるそうです。そして、宿題は月曜日から木曜日までは15分以上かかるものはだしてはいけないという決まりがあるそうです。放課後には塾や部活があるからだとは思いますが、とても驚きました。また、CCA（子どもの才能を伸ばす活動）といも

のがあり、子どもたちが自分の好きなものを見つける制度がありました。日本では、小学校高学年からはクラブ活動がありますが、低学年のうちからそういう活動があるのはいいなと思いました。日本でもそういう制度や活動があったら子どもたちに影響を与えることができるのではないかと思います。

## 2. 幼児教育

幼児教育の施設の訪問でのほうが、たくさんの驚きや発見があったとわたしは感じています。日本の幼児教育では、遊びを中心として学んでいくというイメージが強いですが、シンガポールでは勉強をしているというイメージでした。子どもたちは純粋に勉強を楽しんでいるように見えました。そして、日本の子どもよりも賢いなと感じました。

遊びと学びのバランスを先生方は大切にしていると言っていました。学びが楽しくないと学べないので、学びと楽しさをセットにすることを心がけているそうです。

学びと楽しさをセットにするために、図工の時間はあえて中国語で授業をするという工夫が見られました。芸術は子どもたちが興味・関心を持ち、楽しんでできるものなので、それを利用して中国語とセットにするそうです。これはとても良い方法だと思いましたし、日本でも図工に英語を取り入れて授業をしてみたりする方法をしてみても良いなと思いました。こういった工夫を自分が教師になったときに取り入れてみたいと思わせられました。

右にうつっている写真は子どもたちが作ったものです。子どもが自主的にテーマや疑問を見つけてこのような作品を作るそうです。つまり、主体的な活動を大切にしているということですね。しかし、子どもが気になるものが、日本では中学の理科で習うようなこと（例・雨の行方は？/水の流れはどうなってるの？）だったりして本当に驚きました。なぜそのような疑問が生まれるのか不思議だったのですが、それはみんな毎日新聞を読んでいるからです。幼稚園で新聞を読む時間を作っているそうです。本当に驚きましたが、小さいうちから新聞を読むことを習慣づけることはとてもいいことだと思いました。



日本では幼少連携というワードが今出ていますが、それもしっかり行われているなど感じました。まず、幼稚園の年長さんになると、少しずつ小学校のことについて触れていくそうです。幼稚園と小学校の違いは何か子どもたちに考えさせて、みんなで小学校の生活を知っていくそうです。日本では小1プロブレムがいま問題となっていますが、こういった活動をしていけば、小学校とのギャップがなくなるのではないかと思います。日本でもシンガポールで行われている教育を真似して、取り入れていけば、より良い教育ができるのではないかと思います。

交流会ではだるまさんがころんだの絵本を使って、だるまさんがころんだに似たような遊びをしました。また、お煎餅の手遊びをしました。日本の遊びなので子ども



たちに伝わるか少し不安な面もありましたが、子どもたちはとても楽しんでくれているように見えたし、喜んでいました。リズムや歌に合わせたものだと子どもたちも楽しみやすいのかなと思いました。一気にいろんな国の子どもたちと接するのは初めてのことでしたが、すごく貴重な体験となり、楽しく学ぶことができました。

### 3.おわりに

はじめての海外ということもあり、不安もありながらシンガポール研修に挑みました。実際教育現場に行ってみると、不安なんかもうなくなっていて、はじめてみる光景に驚きや楽しさを感じました。日本の教育ももちろん素晴らしいものだと思いますが、違う国の教育を知って、教育の面白さが自分の中で大きくなり、先生になりたいという気持ちが強くなりました。研修に参加するという決断をして本当に良かったと思いましたし、自分の中で世界が広がったように思えました。なので、今後海外研修に行くチャンスがあり、もし自分が行くことができるという立場になる人がいるならば、是非挑戦してほしいし、私と同じように違う国の教育を知って、いろんな物を吸収してほしいです。